THE SUISHI-NEWS

月刊 水試ニュース

発行所：愛知県水産試験場（本場）

５６３号　　令和５(2023)年６月

藻類貝類養殖技術修練会を開催します

本場　企画普及グループ

水産試験場では、のり養殖業やあさり漁業を営んでいる漁業者の方を対象に、のり養殖とあさり増殖に関する新技術の習得を目的として藻類貝類養殖技術修練会を開催しています。本年度は下記のとおり開催いたしますので、多数のご参加をお待ちしています。

記

１　日時：令和５年７月１１日（火）午前１０時から午後３時５０分まで

２　場所：西尾市子育て・多世代交流プラザ　１階　ふれあいホール

　　西尾市一色町前新田195　　電話（0563）73－4487

３　講座（講師）：

（1）「令和４年度ノリ流通の概要と今後の見通し」

　（愛知県漁連海苔流通センター　業務部次長兼所長　早川　明宏）

（2）「ノリ食害実態と現場対策に関する調査について」

　（愛知県水産試験場　漁業生産研究所　栽培漁業グループ　技師　中島　広人）

（3）「アサリの増養殖について」

　（国立研究開発法人　水産研究・教育機構　水産技術研究所　養殖部門　生産技術部　副部長　伊藤　篤）

（4）「六条潟周辺における潜水ガモの実態」

　（愛知県水産試験場　漁場環境研究部　漁場改善グループ　技師　松井　紀子）

（5）「海水中で生分解する素材を用いたアサリの保護育成技術」

　（愛知県水産試験場　漁業生産研究所　栽培漁業グループ　主任研究員　日比野　学）

図１　昨年度の会場の様子

豊川における天然遡上アユの状況

内水面漁業研究所　冷水魚養殖グループ

アユは秋に産卵し、ふ化後すぐに川を下り、冬から春まで海で成長して、春になると豊川を始めとする県内の河川に遡上してきます。当グループでは豊川の牟呂松原頭首工（河口から約 25km 上流に設置された堰）の魚道で遡上アユの調査をしています。

今年は 4 月 12 日に遡上が初認され、例年と同時期の遡上となりました。遡上アユの平均体重は、過去 5 カ年の平均と比較して 4 月は小さく、5 月中旬は大きくなり、5 月下旬には再び小さくなりました（図２）。国交省中部地方整備局豊橋河川事務所の調査（図３）によると、5 月末までの総遡上数（推定値）は 871 万尾で、2013 年以降、最多の遡上数となっています。例年 5 月下旬には遡上アユが大きくなる傾向にありますが、今年は小さく、これは例年になく遡上数が多いことが関係していると考えられます。

なお、大雨の影響が心配されますが、6 月 8 日の調査においても遡上が確認されており、良い釣果が期待できそうです。

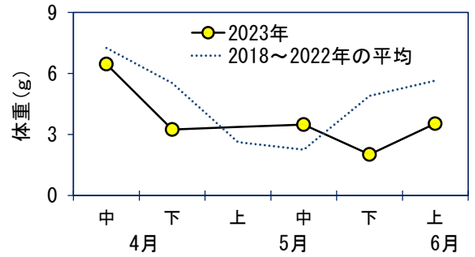

図２　遡上アユの平均体重

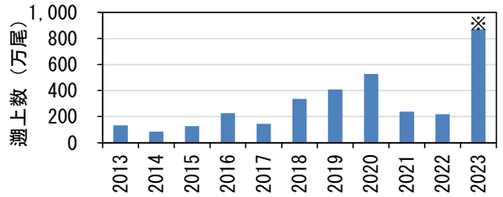

図３　アユの遡上数（推定値）
国交省中部地方整備局豊橋河川事務所調べ
※2023 年は 5 月までの遡上数

近年好調のハモの研究を進めています

漁業生産研究所　海洋資源グループ

ハモはこれから夏に向けて小型底びき網で漁獲され、近年では漁獲量が増加しています。水産試験場では、これまで情報の少なかった愛知県海域のハモについて、食性や成長等の情報を集めています。

まず、伊勢湾のハモが普段何を食べているかを調べるため、胃内容物を分析しました。その結果、魚類を多く食べており、特に遊泳能力の高いカタクチイワシやマイワシ等を好んで食べていることが分かりました（図４）。ハモは砂泥底に巣穴を作って生活しているとされており、この結果は意外な結果でした。次に、伊勢湾のハモの年齢を調べるため、頭部の耳石の輪紋の数を調査しました。その結果、漁獲の主体となる全長 60cm 前後の個体は、2～3 才であり、成長が早いことが分かりました（図５）。今後は、ハモの漁獲量が増加している要因の解析を進めるとともに、このような潜在力の高い資源の有効利用を検討することが必要です。

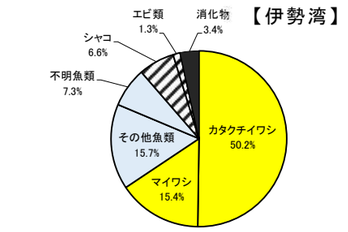

図４　ハモの胃内容物（重量比）

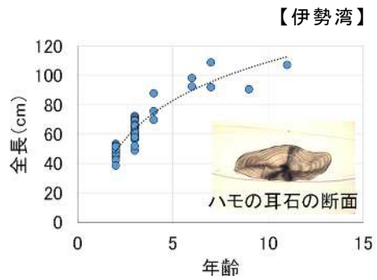

図５　ハモの年齢と全長の関係

https://www.pref.aichi.jp/suisanshiken/

愛知県

本　　場	蒲郡市三谷町若宮 97	0533-68-5196
漁業生産研究所	知多郡南知多町大字豊浜字豊浦 2-1	0569-65-0611
内水面漁業研究所	西尾市一色町細川大岡一の割 56-6	0563-72-7643
三河一宮指導所	豊川市豊津町柳不呂 95	0533-93-1433
弥富指導所	弥富市前ヶ須町野方 801-2	0567-65-2488